

第46回分析化学における 不確かさ研修プログラム —受講者募集—

主催 日本電気計器検定所、(公社)日本分析化学会
測定結果の信頼性の指標としての不確かさの評価がますます重要となってきています。日本分析化学会においてもエキスパートワークショップやセミナー等によりその普及と教育に努めてきました。

また、日本電気計器検定所(JEMIC)は、「計量標準等トレーサビリティ導入に関する標準化調査研究委員会」と「計測標準フォーラム人材育成WG」が共同で開発した不確かさ研修プログラムにより不確かさの研修を実施してきました。

日本電気計器検定所と日本分析化学会は、これらの不確かさ研修を参考に2006年、「楽しく・簡単に・解かり易く」をテーマとして、不確かさの計算が分かりやすく理解できるよう演習を多く取り入れた「分析化学における不確かさ研修プログラム」(2日間コース)を開発しました。

この研修では、

- ・受講者1人1人が理解することを最優先に考えたセミナー
- ・“楽しく簡単に解かり易く”不確かさの計算方法を解説
- ・多くの演習問題を解くことで講義内容を十分理解できる
- ・複数の講師が演習問題を通して、各受講者の理解のお手伝いをする、

ことを特徴としています。講師が一方向的説明や講義を行うのではなく、受講者の理解度を確認しながら対話方式で進めていきます。

本セミナーはハイブリッド型で開催しますので、オンライン参加も可能です。遠方のお客様もお気軽にご参加ください。

ハイブリッド型の詳細は、日本電気計器検定所のホームページをご覧ください。

https://www.jemic.go.jp/gizyutu/j_keisoku.html

期日 2026年3月5日(木)・6日(金)

会場 日本電気計器検定所本社〔東京都港区芝浦4-15-7、電話：03-3451-1205、交通：JR「田町」駅芝浦口(東口)から徒歩約13分または都営浅草線・都営三田線「三田」駅A4(JR田町駅方面)出口から徒歩約15分〕

https://www.jemic.go.jp/kihon/m_honsha.html

対象者 不確かさの計算方法を初歩から学びたい方・不確かさの計算方法を社内教育等の参考にしたい方

講義内容

第1日(9.30~16.30)

1. イントロダクション
2. 演習：温度の測定
3. 不確かさとは何か？(不確かさの概要や必要性など)
4. 用語について1(JIS K 0211:2013 分析化学用語(基礎部門)の説明)
5. 不確かさ評価の概要(タイプAとタイプBの不確かさの違いなど)
6. タイプAの不確かさ評価(タイプAの標準不確かさの求め方)
7. 演習：タイプAの不確かさ評価(タイプAの標準不確かさを求める演習)
8. 確率分布について1(タイプBの評価に用いられるさまざまな確率分布について)
9. タイプBの不確かさ評価(タイプBとしてどのような不確かさの要因があるかと具体的な数値化の説明)
10. 演習：タイプBの不確かさの要因(タイプBの要因

を考察するグループ演習)

11. 確率分布について2(確率分布に応じた除数の説明)
12. 用語について2(不確かさの評価/計算に必要な用語の説明)

第2日(9.30~16.30)

《初日のおさらい》

13. 不確かさの合成と拡張(タイプAの標準不確かさとタイプBとして評価した不確かさの合成とその拡張の説明)
14. 演習：不確かさの合成と拡張(合成標準不確かさと拡張不確かさを求める演習)
15. 実際の不確かさ評価の事例紹介(水道水中のナトリウムの測定)
16. 演習：間違い探し
17. 総合演習：拡張不確かさまでの計算
18. 不確かさの利用について(ILACの示す不確かさを考慮した適合性表明の指針の説明と実際に適合性表明に不確かさを用いている例と技能試験の紹介)
19. 確認テスト

募集定員 24名(定員に達し次第、締め切ります)

参加方法 会場参加またはオンライン参加のいずれかを選択できます。

申込締切 2026年2月26日(木)

受講料 会員64,900円(日本分析化学会会員、JEMIC計測サークル会員)、会員外75,900円

※テキスト代、消費税を含みます。

受講証明書の発行 受講者には「分析化学における不確かさ研修プログラム」を受講し、講習を受けたことの受講証明書を主催団体から発行します。

合格証明書の発行 確認テスト合格者には、日本電気計器検定所から合格証明書を発行します。

申込方法 次のいずれかの方法でお申し込みください。なお、電話での申込は受け付けません。

1. 日本電気計器検定所のホームページ(https://www.jemic.go.jp/gizyutu/j_keisoku.html)の「申込みフォーム」に必要な事項を入力してください。
2. 日本電気計器検定所のホームページ(https://www.jemic.go.jp/gizyutu/j_keisoku.html)から「分析化学における不確かさ研修プログラム」用の受講申込書をダウンロードし、必要事項を入力の上、E-mailに添付してお申し込みください。

送金方法 受講申込みをいただきますと、日本電気計器検定所から受講票と請求書をお送りしますので、指定口座に受講料をお振込みください。振込手数料は貴方でご負担ください。なお、受講料の返金はいたしませんので、あらかじめご了承ください。

個人情報 本セミナーの受講申込みにより取得したお客様の個人情報は、本セミナーに係る連絡に利用するほか、次の目的のために利用することがあります。なお、お客様のお申出により、これらの取扱いを中止させることができます。①JEMIC計測技術セミナーに関するお知らせ、②各種校正試験業務、検定業務、基準器検査業務等に関するお知らせ、③定期刊行物の発送、購読期限および会員の集いに関するお知らせ

喫煙に関するお願い 日本電気計器検定所では、健康増進法「受動喫煙の防止」の趣旨に従い、全館禁煙となっておりますので、ご了承ください。

申込・問合先 〒108-0023 東京都港区芝浦4-15-7 日本電気計器検定所JEMIC計測技術セミナー事務局(担当：長谷川)〔電話：03-3451-1205、E-mail：kosyukai-tyk@jemic.go.jp〕

2025 年度イオンクロマトグラフィー 分析士（初段）試験

主催 (公社)日本分析化学会イオンクロマトグラフィー研究懇談会

イオンクロマトグラフィー分析士（以下、IC 分析士）は、(公社)日本分析化学会分析士認証委員会が認証する資格であり、IC に関する知識・技量の向上、ならびに我が国の分析界の発展に貢献することを目的としております。

IC 分析士認証試験は、2020 年からの世界的なパンデミックの影響を避けると同時に、全国の IC ユーザーが受験できるように、リモート方式での実施となります。リモート試験への移行にあたりカンニングの可能性を危惧される声もありましたが、リモート試験の専門業者にご協力いただき、その課題も解消しております。また、リモート試験を採用するにあたり、全国の受験希望者を受け入れることができるメリットもありますので、今後も継続いたします。

今回は、IC 分析士初段を実施いたします。是非チャレンジしてください。

1. 試験日

- 1-1. 日時：2026 年 1 月 26 日（月）午後 2 時～午後 3 時 30 分（90 分）
- 1-2. 試験方式：リモートによる筆記試験（50 問、1 問につき 4 つの選択肢から一つ選択）
- 1-3. 受験資格：どなたでも受験できます
- 1-4. 受験料：9,900 円（税込）

2. 試験内容

初段では、高専・大学等の卒業程度の分析化学の基礎知識を 20 題（基礎）、イオンクロマトグラフィー（IC）を含む機器分析化学に関する専門的基礎知識を 30 題（専門）が出題されます。

基礎は、公設試や企業において水質管理項目で対象となるイオンや元素の基礎的な化学的性質の他に、高専や大学で学ぶ分析化学（pH の計算、解離定数等）や溶液化学（酸塩基、酸化還元等）に関する基礎知識を出題します。

専門は、企業や大学・研究機関等で IC を含む分析化学の実務経験が 5 年程度のものが問う内容です。専門用語、分離機構、カラムと溶離液の関係、サプレッサの基礎の他に、イオン排除作用、ポストカラム誘導体化法、種々な検出器（電気伝導度、紫外可視吸光度計、ICP-MS 等）、河川水や工場排水等の一般的な水質検査に用いられる試料前処理等を出題します。

3. 試験方法

本試験は、リモート方式をとることになりました。本システムでは、2 つのカメラと 7 つの AI 検出で不正を見逃さないことを特徴といたします。受験者の皆様には初めての試みで不安な点などあると思いますが、何卒ご理解いただけますと幸いです。

リモート web テストの受験に関する詳細は、IC 研究懇談会 HP の IC 分析士のページにあります動画をご覧ください。

4. 申込方法：オンライン（Microsoft forms）

- 4-1. 申込手順：イオンクロマトグラフィー研究懇談会（IC 研究懇談会）のホームページ（<https://www.jsac.or.jp/~ic/>）に入ってください、トップページの「IC 分析士（初段）2025 年度実施分受験申込（QR コード）」をクリックしてください。これより、申込フォームに入ることができます。必要事項をご記入のうえ、送信ボタンを押していただきますと完了し、電子メールで申込の完了が通知されます。なお、申込フォームからデータ送信ができない、または申込が完了しているのにメールに通知が来ない場合は、IC 研究懇談会事務局（ic@jsac.jp）へお問合せください。
- 4-2. 受験料：本試験の受験料は試験の実施に係る費用に加

え、分析士の登録料を含めて 9,900 円（税込）となっております。

- 4-3. 受験料支払方法：申込フォームで選択された受験料振込先に 2025 年 12 月 31 日までに振込をお願いいたします。領収書が必要な場合は IC 研究懇談会事務局（ic@jsac.jp）にお問い合わせください。

- 4-4. 受験申込期日：2025 年 12 月 31 日（水）午後 5 時

5. リモート試験の受験準備並びに試験中のトラブル Q & A

受験者様へお送りする案内をご参照ください。

オンライン受験 お試し用ページ

https://sikaku-uketuke.jp/portal/jsac_IC/kj_users/login

ユーザー ID：ICTest

PW：ICTest

操作体験のご案内

ログイン後、ページ右下にある「Web テスト受験方法」ボタンを押してください。

ページの移動後、受験方法の内容に沿ってご準備をすすめていただき、操作体験を行ってください。

問合せ先 〒780-8520 高知県高知市曙町 2-5-1 高知大学理工学部 イオンクロマトグラフィー研究懇談会事務局 森勝伸・森みかる〔電話：088-844-8306、E-mail：ic@jsac.jp〕

—以下の各件は本会が共催・協賛・
後援等をする行事です—

◎詳細は主催者のホームページ等でご確認ください。

第 80 回表面科学基礎講座
「表面・界面分析の基礎と応用」

主催 日本表面真空学会
期日 2025 年 11 月 1 日 (土)～30 日 (日)
会場 オンライン
ホームページ
<https://www.jvss.jp/ja/activities/04/detail/00025.html>
連絡先 〒113-0033 東京都文京区本郷 5-25-16 石川ビル
5 階 (公社)日本表面真空学会 事務局〔電話：03-3812-0266, E-mail: office@jvss.jp〕

第 54 回電気化学講習会
現場で効く電気化学の基礎
～基礎理論から計測・解析の実務まで～

主催 電気化学会関西支部
期日 2025 年 11 月 12 日 (水)・13 日 (木)
会場 キャンパスプラザ京都 第 1 講義室
ホームページ
<https://kansai.electrochem.jp/>
連絡先 〒610-0321 京都府京田辺市多々羅都谷 1-3 同志
社大学理工学部 機能分子・生命化学科 電気化学研究室内
土井, 今中〔電話：0774-65-6580, E-mail: ecsj_kansai@
electrochem.jp〕

日本金属学会オンライン教育講座
「凝固の科学」

主催 (公社)日本金属学会
期日 2025 年 11 月 13 日 (木)・14 日 (金)
会場 オンライン (Zoom)
ホームページ
<https://www.jim.or.jp/seminersymposium/>
連絡先 〒980-8544 宮城県仙台市青葉区一番町 1-14-32
(公社)日本金属学会 セミナー・シンポジウム参加係
〔電話：022-223-3685, E-mail: meeting@jim.jp〕

第 16 回社会人のための
表面科学ベーシック講座

主催 日本表面真空学会
期日 2025 年 12 月 1 日 (月)～2026 年 1 月 11 日 (日)
会場 オンライン (Google Classroom)
ホームページ
<https://www.jvss.jp/ja/activities/04/detail/00026.html>
連絡先 〒113-0033 東京都文京区本郷 5-25-16 石川ビル
5 階 (公社)日本表面真空学会事務局
〔電話：03-3812-0266, E-mail: office@jvss.jp〕

実用表面分析セミナー 2025

主催 (公社)日本表面真空学会関西支部
期日 2025 年 12 月 3 日 (水)
会場 神戸大学百年記念館六甲ホール
ホームページ
https://www.jvss.jp/chapter/kansai/kansai_jitsuyou26/
連絡先 〒660-0891 兵庫県尼崎市扶桑町 1-8 日鉄テクノ
ロジー(株) (公社)日本表面真空学会関西支部 幹事 久保田
直義〔電話：070-1303-2401, E-mail: kubota.naoyoshi.g3y@
nstec.nipponsteel.com〕

第 12 回分散凝集科学技術講座
分散・凝集のすべて

—希薄系から濃厚系までのあらゆる分散・凝集現象に
関わる研究者・技術者のための
最新理論とテクニック—

主催 (公社)日本化学会コロイドおよび界面化学部会
期日 2025 年 12 月 16 日 (火)・17 日 (水)
会場 オンライン (Zoom Webinar)
ホームページ
<https://colloid.csj.jp/202508/2025pt/>
連絡先 (公社)日本化学会コロイドおよび界面化学部会事務局
「第 12 回分散凝集科学技術講座」事務局
〔E-mail: jigyoukikaku_03@colloid.csj.jp〕

「分析化学」年間特集“波”論文募集

「分析化学」編集委員会

「分析化学」は、2026 年のテーマを「波」と決定しました。
「波」は光の波長と波数を想起させることから、分光分析の
基礎および応用についての論文を募集します。
一方で、「波」は直接、海や川の表面に起こる波を連想させ
ます。本特集においては、海洋や河川の表層または岸辺を対象
とした環境分析についても論文を募集します。
多くの皆様方からの投稿をお待ちしております。是非この機
会をご活用ください。詳細はホームページをご確認ください。
特集論文原稿締切：2025 年 11 月 14 日 (金) (第 2 期)

「分析化学」編集委員会特集
“分析化学の次世代を担う若手研究者”の論文募集

「分析化学」編集委員会

2026 年度 (第 75 巻) の「編集委員会特集」のテーマは、日
本分析化学会の若手組織である「若手交流会」とのコラボレー
ション企画として、『分析化学の次世代を担う若手研究者』に
決定いたしました。分析化学における若手研究者のアクティビ
ティを示すことを目的として、おおむね 45 歳以下の若手研究
者・技術者を筆頭著者とする論文を募集いたします。チャレン
ジングな研究論文、ご自身の研究業績をとりまとめて体系化し
た総合論文、ある分野の研究動向を総合的・体系的に論じた分
析化学総説など、多数の論文の投稿をお待ちしております。詳
細はホームページをご確認ください。
特集論文申込締切：2025 年 10 月 4 日 (金)
特集論文原稿締切：2025 年 12 月 6 日 (金)

「分析化学」特集 “未来を拓く熱分析”の論文募集

「分析化学」編集委員会

「分析化学」編集委員会は、熱分析研究懇談会と共同で「未来を拓く熱分析」と題した特集を企画しました。熱分析は、“物質の温度を調節されたプログラムに従って変化させながら、その物質の物理的性質を温度（または時間）の関数として測定する一連の技法の総称です。適用範囲は、プラスチック、ゴム、セラミックス、金属、鉱物といった材料分野から、食品、製薬などの製品分野、生体・環境・エネルギー分野と多岐にわたり、およそあらゆる物質を対象としています。対象も手法も日々進化しています。本特集号では、広く熱分析が力を発揮した研究論文の投稿をお待ちしています。奮ってご投稿ください。詳細はホームページをご確認ください。

特集論文申込締切：2026年2月20日（金）

特集論文原稿締切：2026年4月17日（金）

初めて書く論文は母語の日本語で！ “第25回初執筆論文特集”募集のお知らせ

「分析化学」編集委員会

「分析化学」編集委員会は、2026年（第75巻）に第25回「初執筆論文特集」を企画し、下記要領で論文を募集します。卒研究生、修士・博士課程院生並びに若手研究者の方々にとって、ご自分の研究成果を日本語で投稿できるよい機会です。なお、2025年より本特集名を「若手初論文特集」から「初執筆論文特集」と変更しました。年間を通して論文原稿を受け付け、審査を経て掲載可になり次第随時掲載いたしますので、奮ってご投稿ください。

2004年の第53巻分から、優れた初論文の筆頭著者に対し、“「分析化学」若手初論文賞”を贈呈しております。2024年の栄えある受賞者については、「ぶんせき」誌2025年第4号（105ページ）をご覧ください。本初論文賞は今回も贈呈の予定です。

「分析化学」誌では、“報文”、“技術論文”、“ノート”、“アナリティカルレポート”などの各論文種目をもうけ、研究内容に応じて掲載できる体制を整えています。また「研究者の初論文」であることを考慮して、編集委員会でもできる限り支援致します。

学術的審査を経て、伝統と歴史ある「分析化学」誌に掲載された論文は、著者にとって一生の宝であり、財産であります。このような学術論文は、人類の知的資産として永遠に受け継がれ、学術、社会の発展に大きく貢献します。額に汗して得た研究成果は、埋もれさせることなく広く公開されることにより、人類の役に立ち社会に還元されます。

自分のアイデア、研究成果を自由に表現できる母語の日本語で、初めての学術論文執筆にチャレンジしてください。先生や先輩に指導をいただいて、論文作成法を習得する良いチャンスにもなります。これは大変貴重な経験であり、次の新たなステップにつながることでしょう。このチャンスは一度しかありません。多数の方々からのご投稿をお待ちしております。

記

1. 特集の題目：第25回初執筆論文特集

2. 応募資格：筆頭著者としての初めての投稿論文であること。もちろん、投稿は卒研究生、修士・博士課程院生に限らず、企業等の方々の投稿も大歓迎です。共著者にベテランの方が加わるのも一向に差し支えありません。なお、他の特集と兼ねることも可能です。他の特集と兼用の際は、投稿カードの特集名は兼用する他の特集名を選択し、「申告書」欄に「初執筆論文特集兼用」とご記入ください。兼用され

ない場合は、投稿カードの特集名は「初執筆論文」を選択してください。

3. 論文の種類：報文、技術論文、ノート、アナリティカルレポート。

4. 審査方法：一般論文の審査方法に準拠。

5. 投稿方法：「投稿規定」(<https://www.jsac.or.jp/~wabnsk/kitei.html>)、投稿要領(<https://www.jsac.or.jp/~wabnsk/youryou.html>)を参照し、論文投稿フォーム(<https://www.jsac.or.jp/~wabnsk/toko.html>)よりご投稿ください。

6. 2026年「分析化学」若手初論文賞の対象：2026年（75巻）1号～12号掲載の「初執筆論文特集」論文の筆頭著者。

7. 特集論文に関する問い合わせ先：〒141-0031 東京都品川区西五反田1-26-2 五反田サンハイツ304号（公社）日本分析化学会「分析化学」編集委員会（電話：03-3490-3537、E-mail：bunkatoukou@jsac.or.jp、URL = <https://www.jsac.or.jp/~wabnsk/>）

「お知らせ」欄原稿について

支部並びに研究懇談会の役員の皆様：掲載用の原稿ファイルをどうぞ電子メールでお送りください。送り先はshomu@jsac.or.jpです。原稿の長さに制限はありませんが原稿締切日は掲載月の前々月25日（例：1月号掲載→11月25日締切）となっておりますのでご注意ください。

本会外から掲載をご希望の場合は以下をご参照ください。

- 1) 掲載できるものは本会が共催、協賛、後援するものに限られます。
- 2) 国際会議につきましては共催、協賛、後援申請に関する規程並びにフォームがありますので、ホームページをご覧ください。本会事務局長宛にお問い合わせください。
- 3) 国際会議以外の講演会等に関しましては、会名、会場、主催団体名、同代表者名、開始期日、終了期日、連絡先並びに同電子メールを記載のうえ、書面でお申し出ください。
- 4) 掲載原稿の作成要領に関しましては承諾をご返事する際にお知らせします。
- 5) 本会支部または研究懇談会が共催、協賛、後援を承諾した事業につきましては、その旨をメールにお書きいただき、原稿ファイルをshomu@jsac.or.jpにお送りください。

国際会議以外の共催、協賛、後援に関する規程抜粋（共催）

8. 討論会、講演会等の共催とは、その討論会、講演会等の開催について、本会は主体性を持たず、会誌等を通じて広報活動等の援助を行う場合をいう。
9. 本会が討論会、講演会等を共催する場合は、その討論会、講演会等の主要議題が本会の専門分野と関連を持ち、本会正会員が会議の準備、運営等の委員に若干名加わることを条件とする。
10. 本会が共催する討論会、講演会等に対しては、他学協会長等の申し出によって会誌等による広報活動の援助を行う。特に理事会の承認を得て分担金を支出することがある。（後援又は協賛）
11. 討論会、講演会等の後援又は協賛とは、本会がその討論会、講演会等の開催に賛同し、後援又は協賛団体の一つとして、本会名義の使用を認める場合をいう。
12. 本会が討論会、講演会等を後援又は協賛する場合は、その討論会又は講演会が分析化学に関連を持ち、その開催が本会会員にとっても有意義であることを条件とする。
13. 本会が後援又は協賛する討論会、講演会等に対しては、希望に応じ会誌等による広報活動の援助を行うことがある。